

令和 8 年 7 月 17 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立坂田小学校	米原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立坂田小学校	https://sakata-e-maibara.edumap.jp/page_20220423014046

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市立坂田小学校	https://sakata-e-maibara.edumap.jp/page_20220423014046	https://sakata-e-maibara.edumap.jp/page_20220423014046

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、「心豊かに、しなやかに生きる子ども」を教育目標に、知・徳・体、調和のとれた児童の育成を目指している。米原市にあってＪＲ琵琶湖線の坂田駅近くに立地する本校区は、商業施設や新興住宅地の開発が続き、教育熱心な旧来の地域を含め活気がある地域である。児童も明るく活発で、学習にも意欲的である。しかし、一方で指示されたことにはまじめに取り組めるが、自信をもって表現したり、積極的に学びを深めたりすることはやや苦手である。また、互いの良さを認め合い切磋琢磨し合うという姿に物足りなさを感じるのが現状である。学力的な部分においては、ここ数年全国平均を下回る傾向にあった全国学力学習状況調査や４年生で実施している学力調査の結果のうち、特に国語科で改善に向かうなど、児童それぞれがもつよさを表現し合う学習の場をより多く設け、児童の自信や学ぶ意欲を高めていくことに取り組んできた成果が少しずつ表れてきたと感じている。特別の教育課程を編成し取組を続けている英語科の学習に全職員がより積極的に取り組むことにより、自信をもって積極的にものごとにかかわる力や多面的で多様な考え方ができる力を育てることにつなげ、児童の自信や学ぶ意欲、学ぶ力の向上につなげていきたいと考えている。

学期末に行っている児童アンケートでは、「英語に興味があり、もっと英語を学習したいと思いますか。」という問いに対して、１学期末には 80.8%の児童が、２学期末のアンケートには 72.2%の児童が肯定的な回答をするという結果になった。本校では、授業の中で、基礎的な事項の繰り返しや友だちと交流する楽しい学習活動、英語専科教員の発案により、朝の帯時間（Ｅトレの時間）に日常的に使える英語の表現をＡＬＴとの楽しい掛け合いの中で体験する活動、授業だけでなく、休み時間にも英語の時間に学習した表現を使い楽しくコミュニケーション能力を高める活動などに取り組んでいる。このような活動を通して、全校児童の英語を日常的に使いたいという思いを育て、児童の英語に対する興味関心を高めることにつながっているように思う。さらに、本校の英語学習において、専科教員やＡＬＴの存在も欠かせない。今年度は、中学校と連携し、授業の中で扱う単語や表現を系統立てて学べるようにしたり、単元テストを工夫したりしている。児童の学習意欲や満足感を大切に、さらに今後の英語教育の充実につなげていきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

県の教育目標「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり ～三方よしで幸せ育む滋賀の教育～」、市の目標「ともに学び、ともに育つ、学びあいのまち まいばら ～自分もひとも大切にし、地域を誇る人づくり～」、教育の基本理念「自分の未来を自分でつかむ子どもの育成ー子どもの自己肯定感と自己有用感を高める教育の推進ー」の中にある、これからの時代を生きる力の育成や人とのかわりの中で進んで自分を鍛えるという精神は、本校の教育を進める上でも基本としているところである。社会のグローバル化が進む中、英語への期待は一層高まっている。本校でも、英語教育の重要性を意識されている保護者の方は多く、塾などで英語を学んでいる子も少なくない。このようなことを踏まえながら、英語に親しみ、進んで英語学習に取り組もうとする児童を育てることを目標に取組を進めている。

全国学力学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対する肯定的回答率が高い傾向は継続して

見られており、校内研究や英語学習で取り組んできた友だち同士の交流場面を大切にしたい学習の成果が現れていると考える。さらに、「英語の勉強は好きだ。」という問いに対して肯定的な回答をする児童の割合は、県や全国平均と比べてかなり高く、英語の学習に楽しく取り組んでいることも喜ばしいことである。子どもたちが楽しく取り組める英語学習を今後も継続する中で、さらに広い視野で他者を理解したり、つながりを深めたいという意欲を高めるような授業づくりに、今後も取り組んでいかなければならないと考えている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

英語教育については、保護者にも「子どもは、英語に興味をもち、英語の学習を楽しみにしている」という設問を設定し、評価をいただいている。結果としては、前年度 71.1%であった肯定的回答が 62.7%に低下した。積極的に英語に関する情報提供を行ったり、楽しい授業づくりに取り組んだりしているものの、英語科に対する保護者の期待は大きく、楽しいだけの取組から児童が興味をもち主体的に学びを深め、英語力の向上を図っていくことが求められている結果であると考え。特別の教育課程実施から数年が経ち、一定の成果は見られているが更なる改善が必要であるように感じている。本校で勤務している専科担当教員は、民間の英語教室等での指導歴があり多様な経験と授業改善を進めたいという意欲も高い。令和8年度においては本教員を核にしなが、ALT とともに取組を進め、本校の特色ある取組として定着するよう努めていきたい。

具体的な取組としては、第一に、児童の意欲を高める授業づくりである。令和7年度は、近隣の小学校とオンラインでつながり、交流をする授業を工夫したが、児童の発達段階に応じた、「やってみよう」「できた」「使ってみよう」と思える学習展開の工夫や教材の開発に、過去の取組の成果を生かしながら、さらに積極的に取り組み授業改善を図っていききたい。専科教員、ALT と担任による、つけたい力や評価の観点を明確にした指導計画の立案や、デジタル教科書やICTを活用した分かりやすい指導、児童自らが発音を確認したり使いたい表現を調べたりしながら学ぶ授業づくりと家庭学習の推進に、より積極的取り組むことで実現につなげていきたい。

二つ目は、評価の充実である。学習活動ごとの目標を明確にし、指導の中で児童の取組や進歩の状況を積極的に評価することで、目標に迫る児童の姿につなげていきたい。令和8年度は、中学校のテストの内容を参考にし、専科教員が自作の単元テストを実施している。また、児童の発達段階に応じた具体的な姿を検証していくことで、学習評価の妥当性や信頼性を高め、保護者にも理解され協力いただけるような評価としていくことが必要である。

三つ目は、中学校の英語学習へつなげていくことである。生涯英語に親しむ日本人を育成するには、入門期の英語を指導する小学校教員も次の段階の英語教育について理解する必要がある。研修を通じて英語力の向上に努めることはもちろん、小中連携による授業参観や交流学习を進めていく必要があると考える。幸い、本校区では小中交流の仕組みがあり、そこを活用した英語科指導の交流を図っていききたい。また、令和8年度は、進学先の中学校と連携し、中学校で学習する単語や表現に小学校のうちに触れることができるように計画的に学習を進めている。スムーズに中学校の英語学習につなげられるよう、今後も工夫改善を行っていききたい。